

地球環境の総合コンサルティング

TSK

資源循環型社会の構築を目指して

地域の廃棄物は地域の責任で処理する



テクノ総合開発株式会社

地球環境に配慮した確かな技術力で資源循環型社会の構築に向け 様々な環境のニーズにお応えします。

「地域の廃棄物は地域の責任で処理する」

豊かな生活環境と限りある資源を護るため、地域住民、行政、産業界が一体となり、地域から生じた廃棄物は地域で処理すると共に、地域でリサイクルする循環型社会の構築に対し共通認識を持たなければなりません。私たちは、こうした意味において、常に廃棄物管理システムの設計者として積極的にプランを提案し、地域の特性や様々なニーズに沿ったエンジニアリングを提供します。

「企画・構想・計画・設計・施工まで

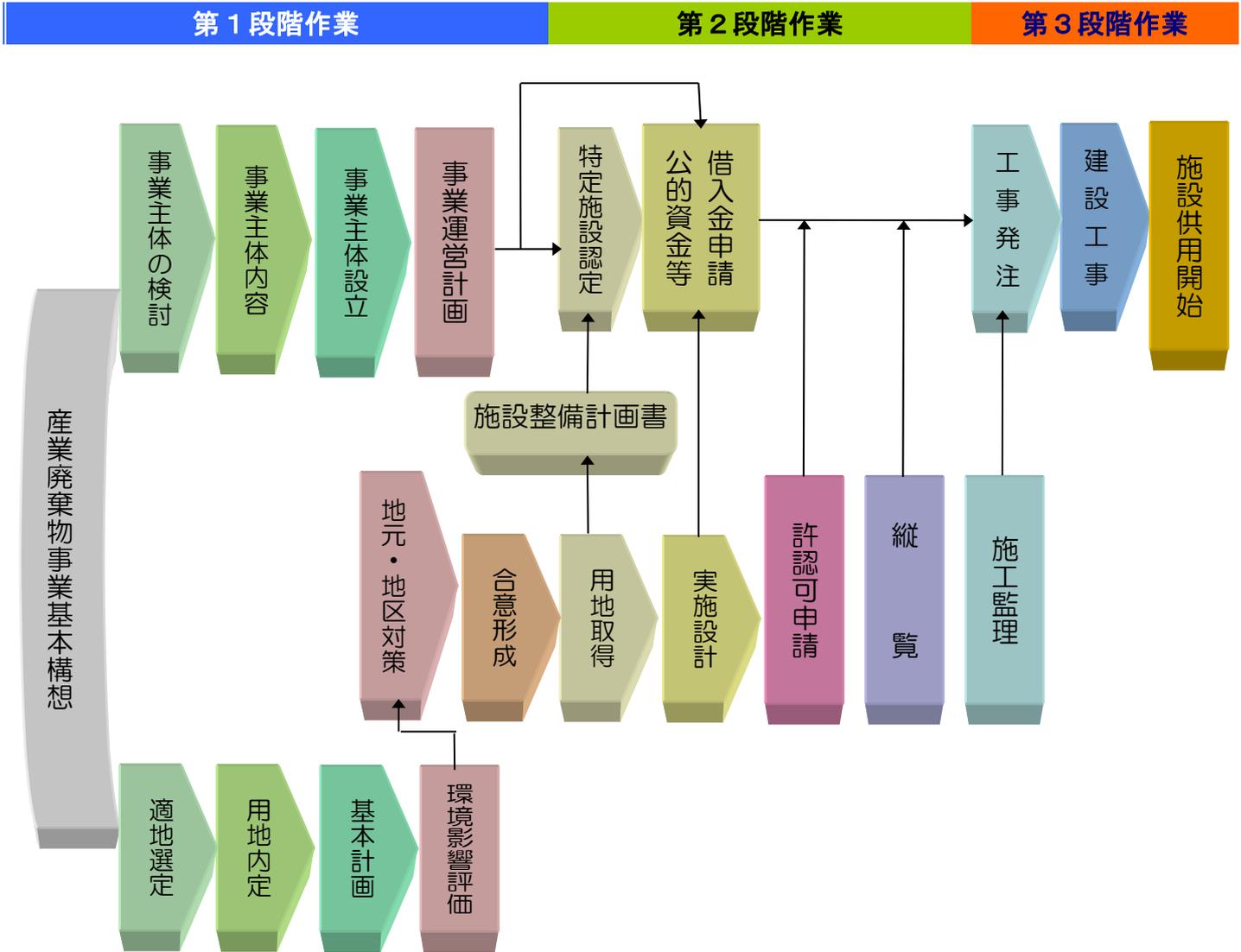
一貫したコンサルティングとシステムワークでプロデュース」

事業の目的・役割を検討し、確固たる展望と情報・技術の裏付けに基づき、リサイクル化に向け、効率の良い独立採算を前提とした総合的なコンサルティングを行います。

業務内容

1. 一般廃棄物処理基本構想・基本計画
2. 適地選定調査
3. 施設基本計画
4. 環境影響評価（生活環境影響調査等）
5. 基本設計
6. 実施設計
7. 発注仕様書、技術評価業務
8. 各種許認可申請業務
9. 施工監理
10. 設備計画書の作成
11. 設置許可申請書作成
12. 交付申請書及び実績報告書作成
13. 産業廃棄物処理施設に関する上記2～9の業務
14. 事業経営計画

廃棄物処理・処分施設の整備事業フロー



廃棄物を処理・リサイクルする

私たちの経済活動や日常生活により発生する廃棄物は、種類・量ともに増加の一途を辿っています。これまで廃棄処分されていた物を再資源化することで、限りある資源の有効利用や周辺環境の保全に大きく貢献します。

「M&A堆肥醗酵方式」による完熟堆肥製造プラントの概要

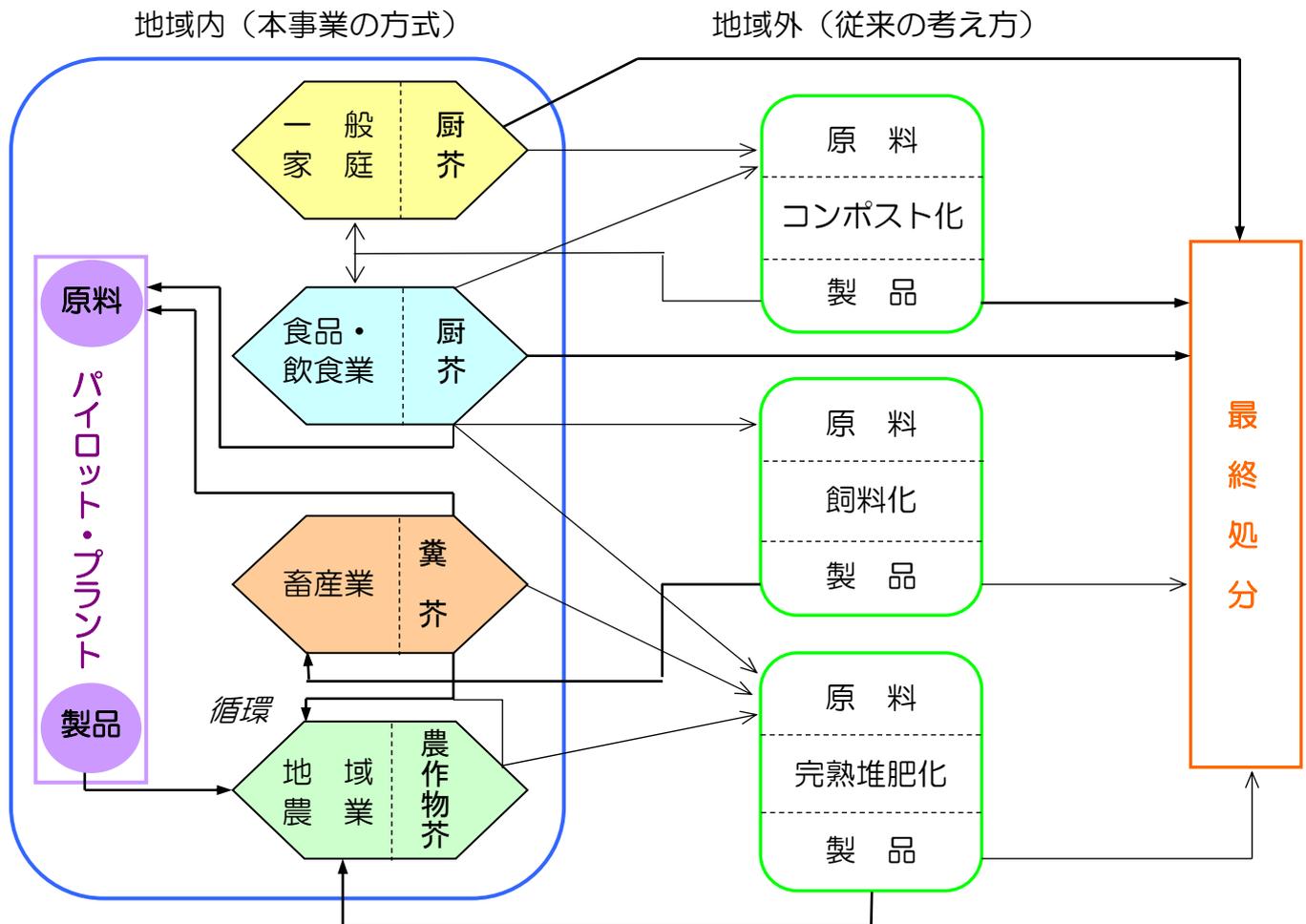
「M&A堆肥醗酵方式」は、数十年來の堆肥醗酵の主流であったものの、問題点も多い「連続攪拌混合方式」から脱却し、日本で古來から綿々と培われてきた「野積み（堆積）プラス切り返し方式」を最新の微生物醗酵理論から見直し、吉田忠幸博士や吉田敏彦氏等による30年に余る試行錯誤の末、要約確立された「間歇吸気堆積法」とでも呼称すべき新醗酵技術を中核とし、更に最新のイオン技術を組入れ、従来の連続攪拌混合方式も含め、唯一解決できなかった悪臭問題をもクリアした最新の堆肥醗酵方式です。

従来方式（醗酵レーン連続攪拌方式）と「M&A堆肥醗酵法」との比較表

目	従来方式	M&A堆肥醗酵法
発酵方式	醗酵レーン連続攪拌方式	間歇給気堆積方式（3回切返し）
製造期間	50～70日（平均60日強）	40～45日（平均40日）
製品品質	放線菌数 $10^7 \sim 10^8$ 、臭気残存	放線菌数 10^8 、微醗酵臭のみ残存
発酵室内臭気濃度	アンモニア 300～1,200ppm アミン 50～400ppm	アンモニア 30～65ppm アミン 0.1～0.2ppm
施設境界臭気濃度	スクラバ脱臭で4～4.5 土壌脱臭との併用で3～3.5	専用脱臭機+浄化槽方式で2未満
原料種類	食品厨芥、農・林産物芥、畜産糞芥等 （高濃度塩分の生ゴミは難）	食品厨芥、農・林産物芥、畜産糞芥 浄水場汚泥、生ゴミ等
建設費用	100とする	50以下
脱臭費用	建設費用の15～40%	建設費用の概ね15%
設備費用	100とする	50未満
所要人員	4～7名（自動化の程度による）	4～5名
維持費用	100とする	70～75
その他	春～秋に蝇や害虫の発生あり	蜘蛛が営巣（安全性高い）

注）概ね、1日の最大処理量が40t_h（40m³）

従来の処理と本技術による処理の原料や製品の流れの比較



注） \longrightarrow は主要なルート、 \dashrightarrow は一部量のルートを示す。